

秋田市のまちづくりに関するアンケート調査結果(概要)

1 調査の概要

1-1 調査の目的

第7次秋田市総合都市計画および第4次秋田市国土利用計画の策定にあたり、現計画策定時の調査結果との比較検証や、各計画への反映を見据え、事前調査として、市民のまちづくりに対する意識等を把握するものである。

1-2 調査対象等

1) 調査対象

秋田市内に居住する20歳以上の市民（基準日：平成31年4月1日）

2) 調査人数(調査票の配布数)

調査人数は、標本の大きさ（ $n=1,063$ ）と過去の類似調査の回収率（約40%）をふまえ、現行計画策定時に実施したアンケートと同様に3,000人（ $1,063 \div 0.4 = 2657.5$ ）を対象とする。

1-3 調査人数の配分方法と抽出方法

調査人数の配分は、各地域の回答数を一定程度確保するため、男女、地域、10歳階級の人口構成比を基本に、2段階で配分し（①1,400を各地域に200ずつ分配し各人口構成比に応じて配分、②残り1,600を母集団の各人口構成比に応じて配分）、それぞれの配分数に応じて無作為抽出する。

上記の配分方法により算出した性別・年代別・地域別の調査人数は次のとおりである。

表 1-1 性別・年代別・地域別の調査人数

区分	男							女							総数
	中央	東部	西部	南部	北部	河辺	雄和	中央	東部	西部	南部	北部	河辺	雄和	
20～29歳 (H11.4.1～H2.4.2)	28	36	15	20	30	9	17	29	33	19	24	28	9	19	316
30～39歳 (H2.4.1～S54.4.2)	39	36	25	31	40	12	11	42	38	26	33	40	12	11	396
40～49歳 (S54.4.1～S44.4.2)	51	39	32	36	46	16	12	53	42	32	41	46	13	12	471
50～59歳 (S44.4.1～S34.4.2)	46	37	29	36	45	20	18	49	40	32	42	51	20	18	483
60～69歳 (S34.4.1～S24.4.2)	47	47	36	40	58	27	26	53	52	38	45	64	27	25	585
70歳以上 (S24.4.1～)	49	49	38	40	61	31	27	79	75	57	56	94	49	44	749
計	260	244	175	203	280	115	111	305	280	204	241	323	130	129	3,000

1-4 調査期間

令和元年6月28日（金）から7月26日（金）まで

1-5 調査方法

郵送調査法（送付および回収）

1-6 回答者数

1,207人（回収率40.2%）

表 1-2 性別・年代別・地域別の調査人数

	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
20～29歳	316	10.5%	81	6.7%	25.6%
30～39歳	396	13.2%	111	9.2%	28.0%
40～49歳	471	15.7%	162	13.4%	34.4%
50～59歳	483	16.1%	222	18.4%	46.0%
60～69歳	585	19.5%	308	25.5%	52.6%
70歳以上	749	25.0%	322	26.7%	43.0%
無回答・無効票	—	—	1	0.1%	—
計	3,000	100.0%	1,207	100.0%	40.2%

	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
中央地域	565	18.8%	232	19.2%	41.1%
東部地域	524	17.5%	220	18.2%	42.0%
西部地域	379	12.6%	140	11.6%	36.9%
南部地域	444	14.8%	190	15.7%	42.8%
北部地域	603	20.1%	235	19.5%	39.0%
河辺地域	245	8.2%	82	6.8%	33.5%
雄和地域	240	8.0%	96	8.0%	40.0%
無回答・無効票	—	—	12	1.0%	—
計	3,000	100.0%	1,207	100.0%	40.2%

2 調査結果の総括

2-1 居住地域に対する意識

1) 居住地域の満足度

- ・居住地域の評価（地域全体）は、普通・満足・やや満足の割合は79.8%で、不満・やや不満は14.3%となっている。
- ・満足度が高い項目は「緑の豊かさ」および「上水道・下水道の整備状況」で、満足度が低い項目は「電車・バスの便利さ」である。
- ・地域別では、河辺地域や雄和地域で「電車・バスの便利さ」や「医療機関の近さ」、「日常の買い物の便利さ」の満足度が低くなっている。
- ・年代別では、ほとんどの項目で70歳以上の満足度が低くなっており、特に自然環境に関する項目や、都市機能施設等の利便性に関する項目の満足度が低くなっている。

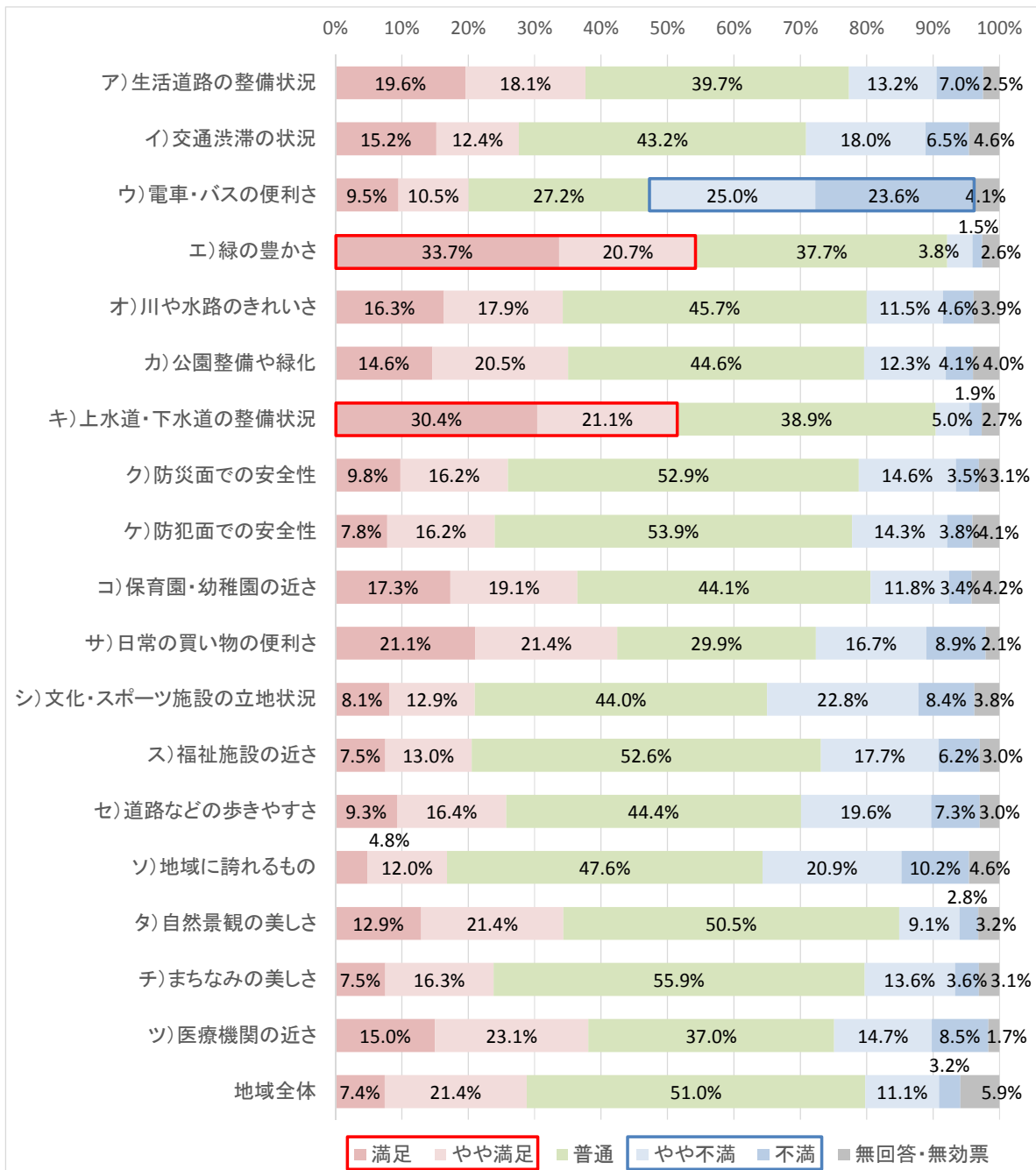


図 2-1 住まいの地域の満足度

2) 地域で問題となっている土地・建物

- ・「特にない」が61.3%と最も多く、次いで「空き家」が28.3%、「空き地」が12.9%の順となっている。
- ・地域別では、河辺地域や雄和地域において、「空き家」が30%を超えており、他地域と比較して相対的に多くなっている。

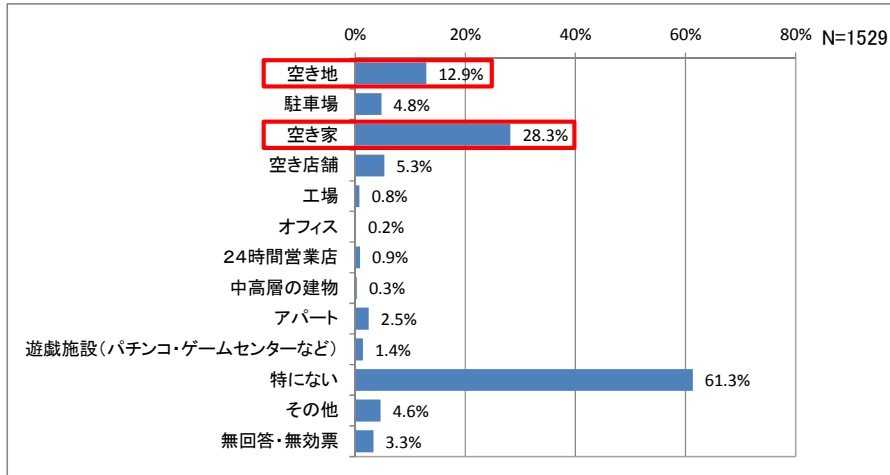


図 2-2 問題となっている土地・建物

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない

2-2 住み替えの意向

1) 住み替え意思

- ・「現在の地域に住み続けたい」が 67.4%となっており、そのうち 19.5%が「不便を感じている」となっている。
- ・地域別では、中央地域や東部地域、南部地域で「便利または不便を感じていないため住み続けたい」が 50%を超え、他地域と比較して相対的に多くなっている。一方、雄和地域で「住み替えたい」が 30%を超えている。
- ・年代別では、20 歳代では「住み替えたい」が 40%を超えているが、年代の上昇とともに「住み続けたい」の割合が増加している。

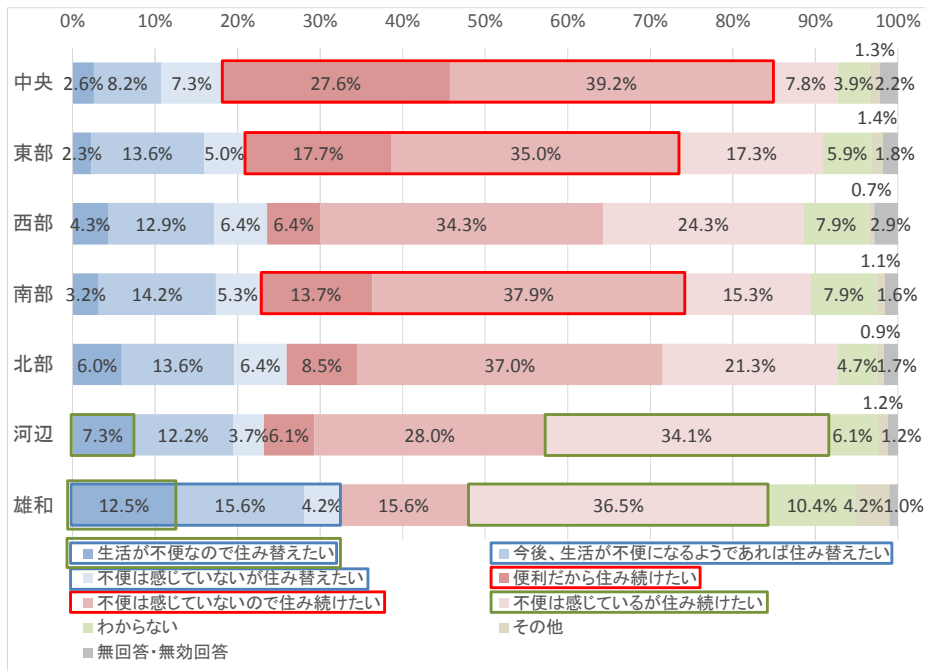


図 2-3 住まいの地域の居留意向（地域別）

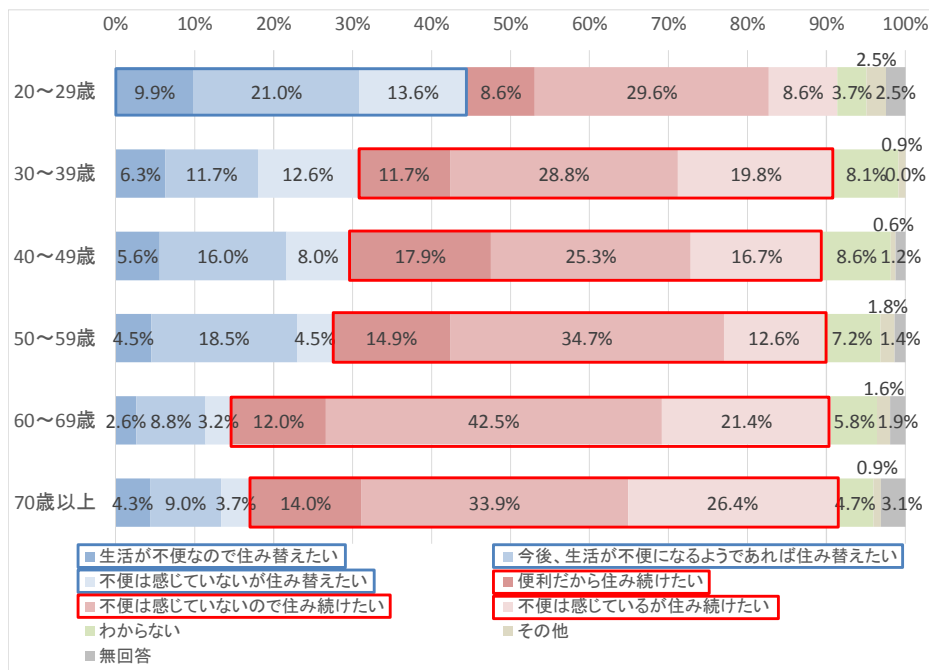


図 2-4 住まいの地域の居留意向（年代別）

2) 住み替えを希望するエリア

- ・「医療機関・商店などが近所にあり生活しやすい地域」が 59.5%と最も多く、次いで「鉄道やバスなどが利用しやすい地域」が 18.6%、「通勤・通学の場所に近い地域」が 10.4%の順となっている。
- ・地域別では、西部地域や雄和地域で「医療機関・商店などが近所にあり生活しやすい地域」が 75%を超え、他地域と比較して相対的に多くなっている。一方、南部地域や北部地域、河辺地域で「鉄道やバスなどが利用しやすい地域」が 20%を超え、他地域と比較して相対的に多くなっている。
- ・年代別では、40 歳以上の各年代で「医療機関・商店などが近所にあり生活しやすい地域」が 60%を超え、40 歳未満の各年代と比較して相対的に多くなっている。一方、40 歳未満の各年代で「通勤・通学の場所に近い地域」が 25%を超え、40 歳以上の各年代と比較して相対的に多くなっている。

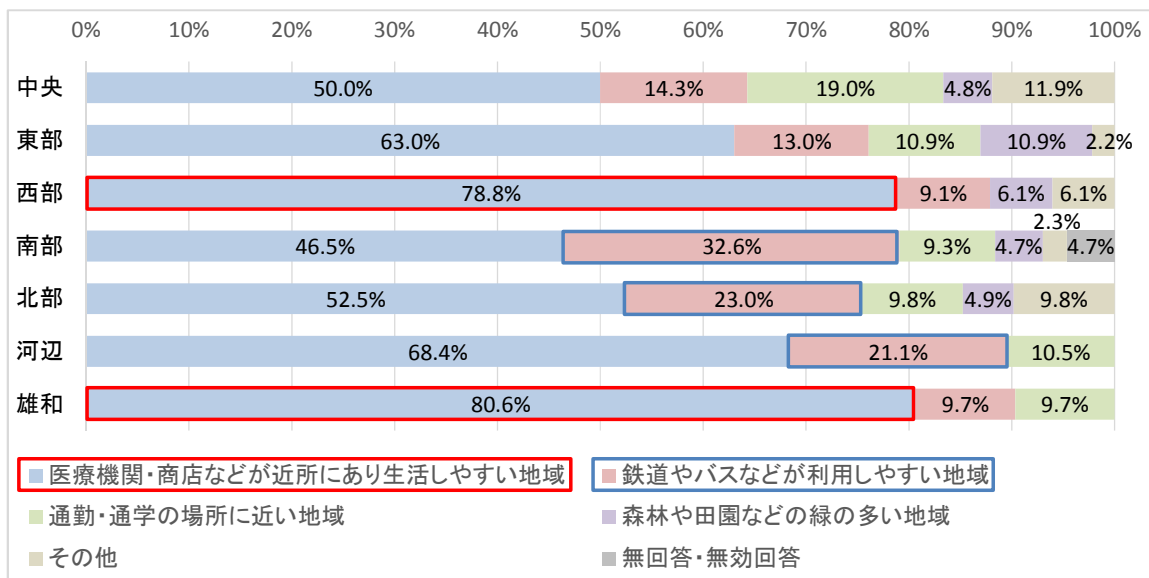


図 2-5 住み替える際の地域に求めるもの（地域別）

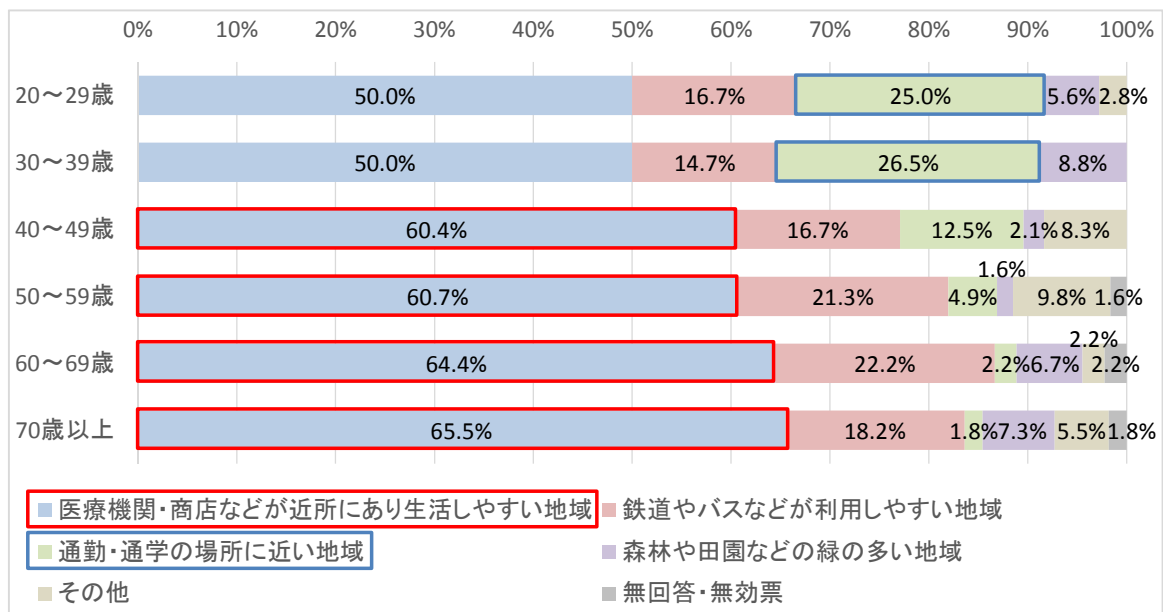


図 2-6 住み替える際の地域に求めるもの（年代別）

3) 住み続けたいとする理由

- ・「地域に愛着がある」と「買い物や医療など生活に便利」が25%以上と多くなっている。
- ・地域別では、中央地域、東部地域、南部地域で「買い物や医療など生活に便利」が最も多くなっている。一方、その他地域では「地域に愛着がある」が最も多くなっている。

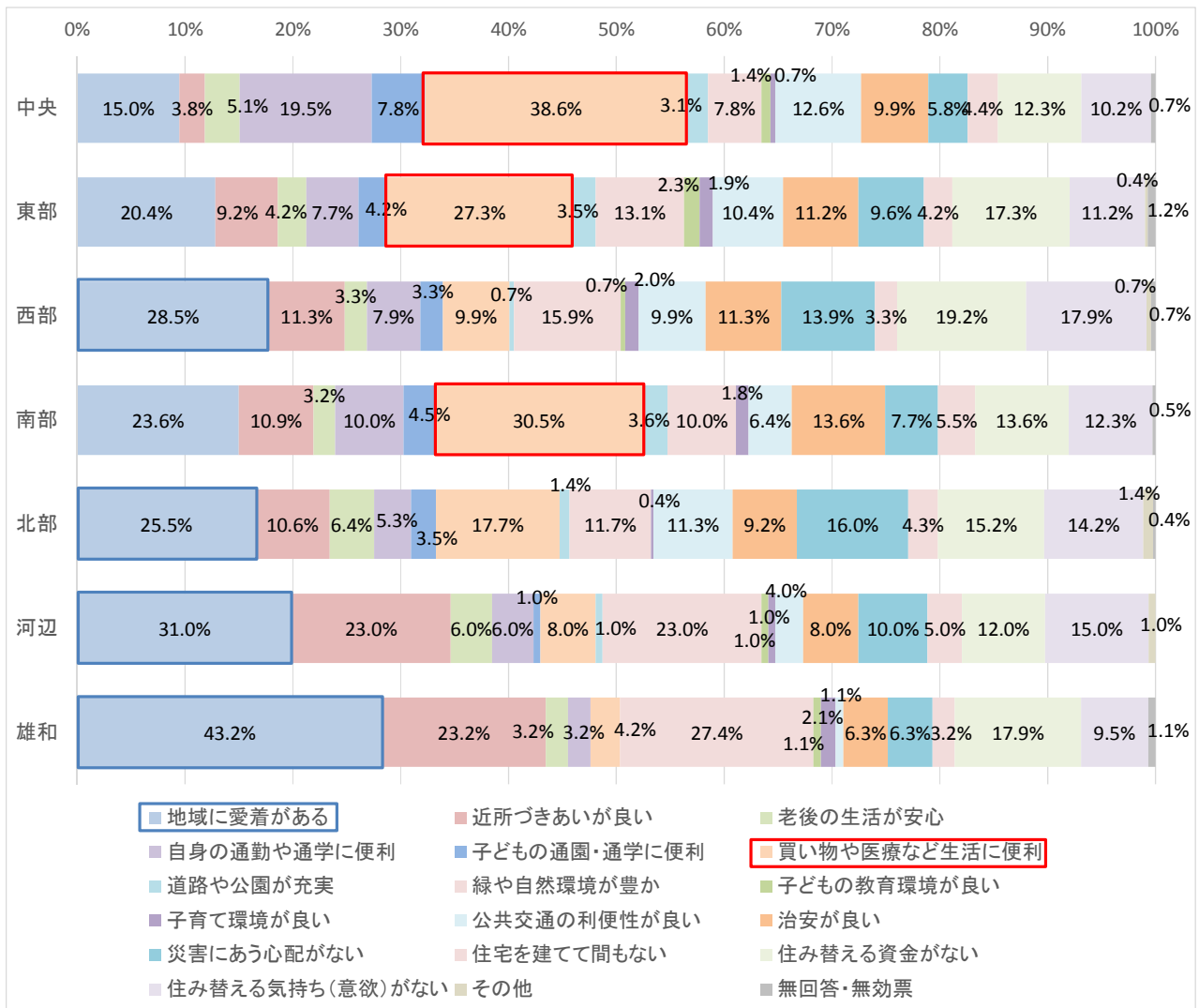


図 2-7 住まいの地域に住み続けたい理由（地域別）

2-3 交通手段、交通環境

1) 主な移動手段

- ・日常生活の移動手段は、「自家用車」が69.4%と最も多く、次いで「自転車」が10.6%、「徒歩」が7.0%の順となっており、公共交通（「鉄道」「路線バス」「マイタウン・バス」）は8.4%となっている。
- ・地域別では、いずれの地区も「自家用車」が最も多くなっており、中央地域と東部地域を除く地域は70%を超えている。

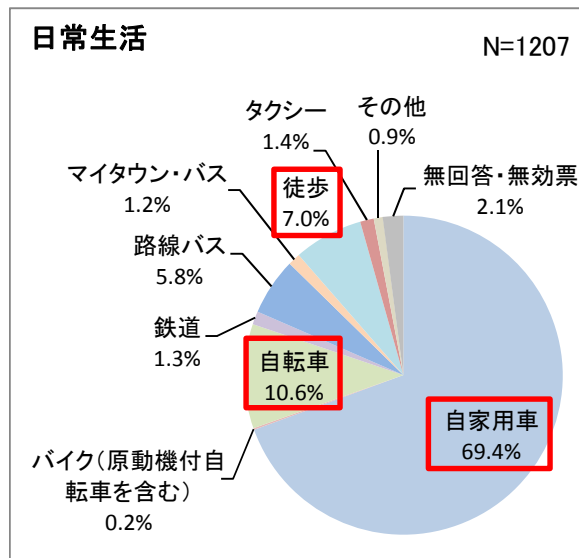


図 2-8 日常生活の移動手段

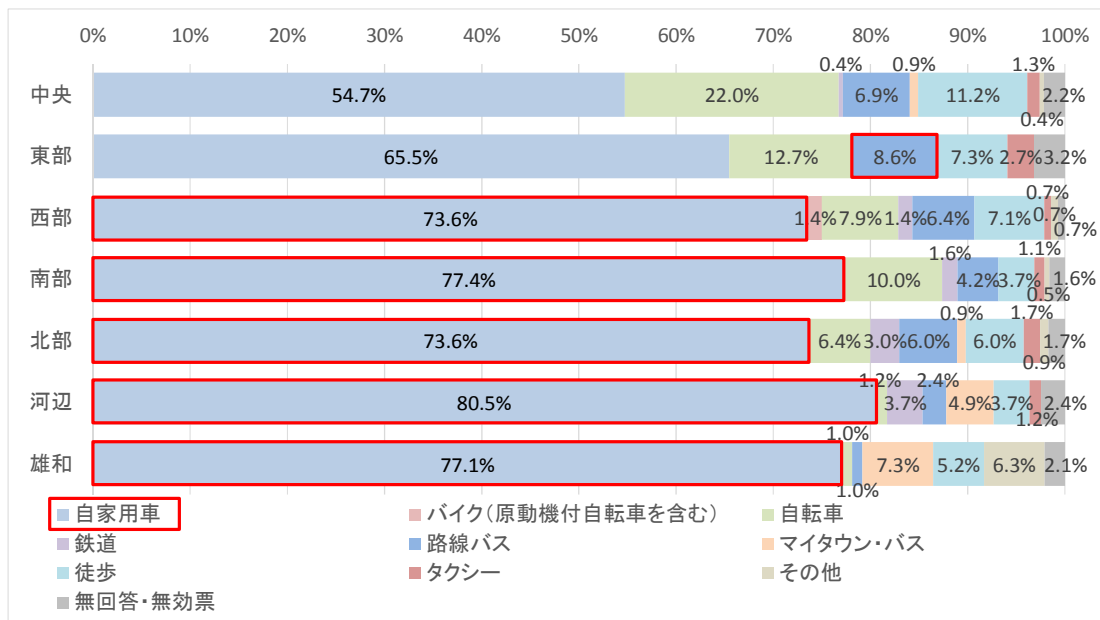


図 2-9 日常生活の移動手段 (地域別)

2) 自動車利用環境で改善が必要だと思われる事項

- ・「除雪」が63.7%と最も多く、次いで「住宅地の道路」が22.1%、「交通渋滞」が21.0%の順となっている。

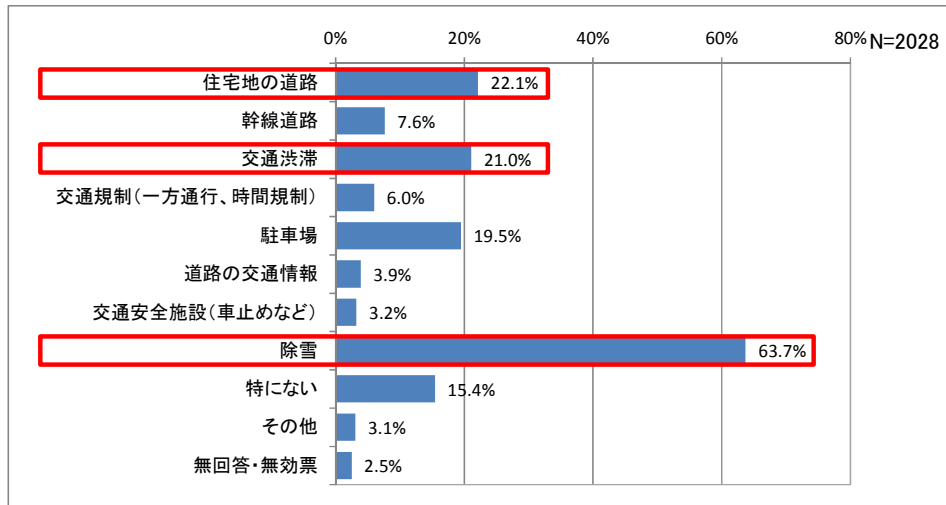


図 2-10 「車の利用環境」に関する改善点

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない

3) 歩行者環境で改善が必要だと思われる事項

- ・「除雪」が56.3%と最も多く、次いで「車の運転マナー」が35.3%、「歩道の設置」が33.5%の順となっている。

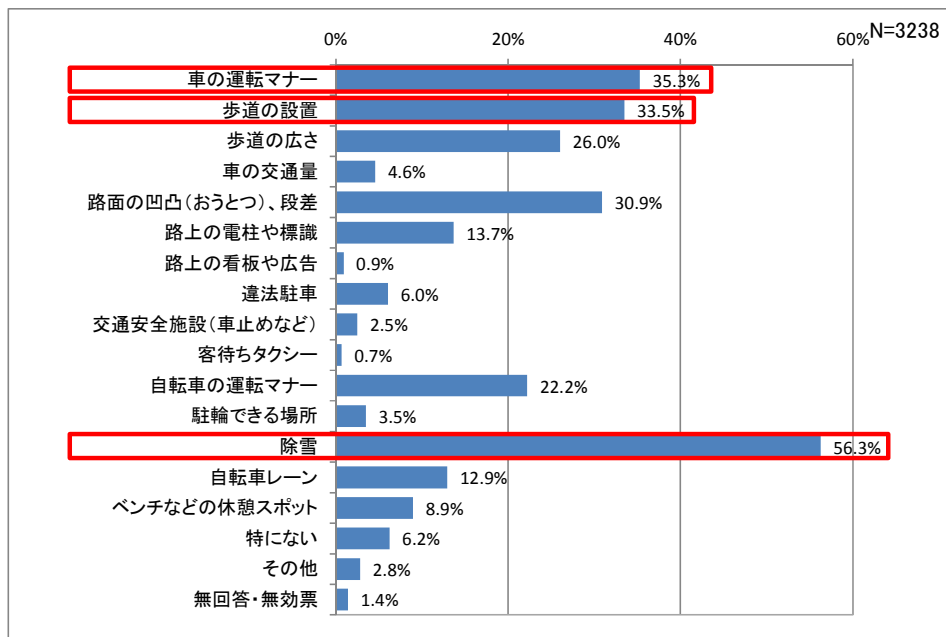


図 2-11 「歩行者が歩きやすいまち」に向けた改善点

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない

4) 自転車利用環境で改善が必要と思われる事項

- ・「路面の凹凸（おうとつ）、段差」が 39.3%と最も多く、次いで「自転車レーン」が 37.6%、「自転車の運転マナー」が 36.0%の順となっている。

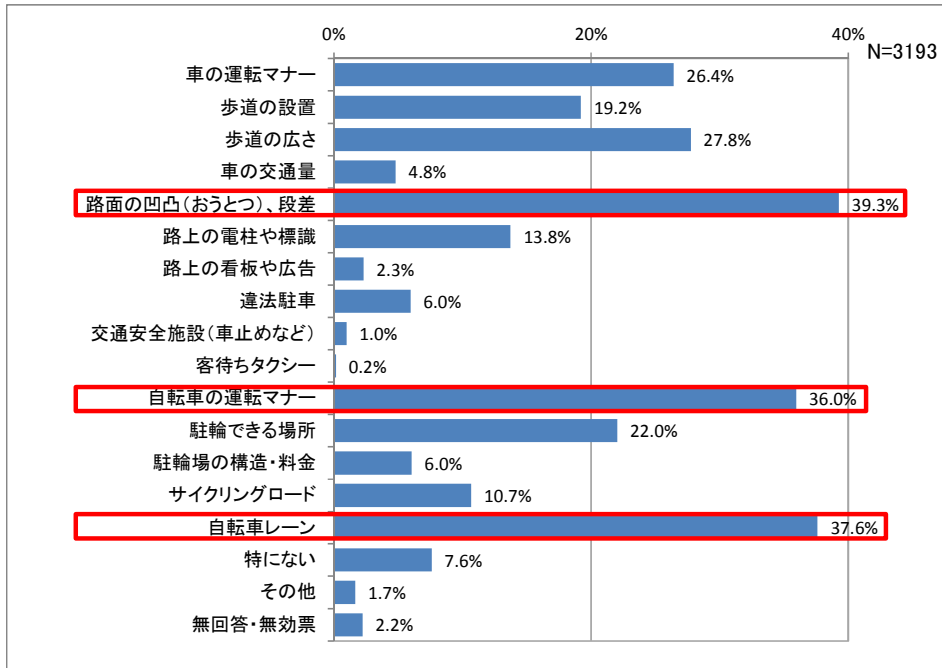


図 2-12 「自転車を利用しやすいまち」に向けた改善点

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない

5) 公共交通への転換・利用促進に必要な取組

- ・「鉄道やバスの運行本数を一定程度確保」が 53.1%と最も多く、次いで「鉄道とバス、バスとバスなどの乗り継ぎ利便性の向上」が 39.9%、「路線バスの定時性の確保」が 33.6%の順となっている。

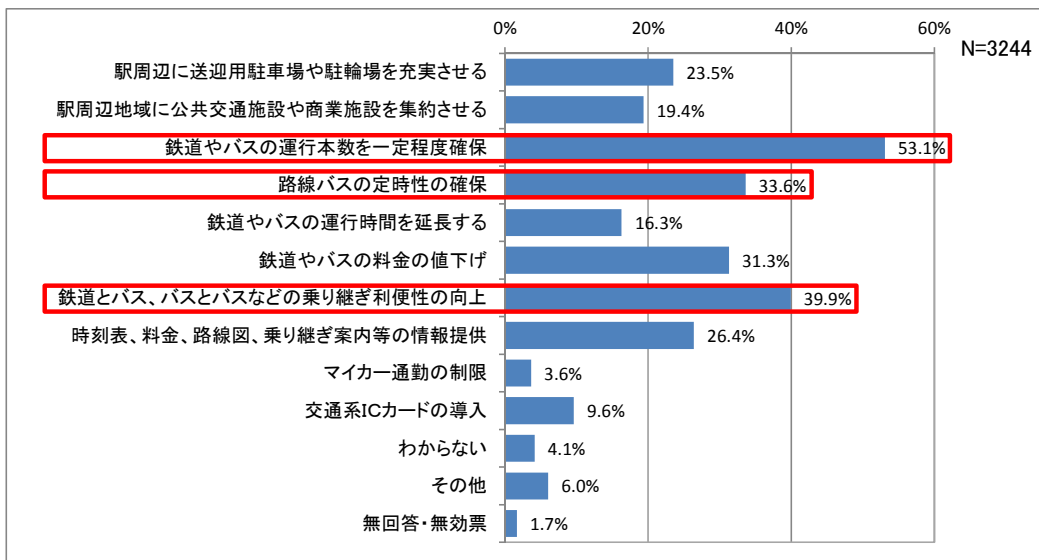


図 2-13 公共交通の転換等に必要な取組

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない

2-4 秋田市のまちづくり方針に対する意識

1) 秋田市のまちづくり方針の理解度

- ・「知らない」が49.7%と最も多く、次いで「聞いたことがあるが内容はわからない」が34.6%、「知っている」が14.3%の順となっている。

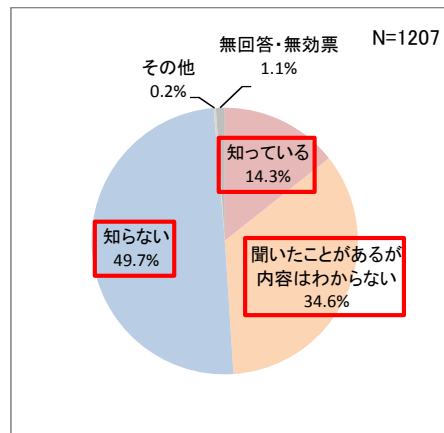


図 2-14 秋田市のまちづくり方針の理解度

2) 居住地域の地域中心を今後どのようにすべきか

- ・「店舗やサービス施設を誘導する」が34.5%と最も多く、次いで「公共交通の乗り継ぎ拠点として整備する」が27.3%、「医療・福祉施設を誘導する」が24.5%の順となっている。
- ・地域別では、中央地域、東部地域、西部地域、北部地域で「店舗やサービス施設を誘導する」が20%を超え、他地域と比較して相対的に多くなっている。一方、河辺地域、雄和地域では「医療・福祉施設を誘導する」が20%を超えているほか、南部地域では「公共交通の乗り継ぎ拠点として整備する」が20.9%と、他地域と比較して相対的に多くなっている。

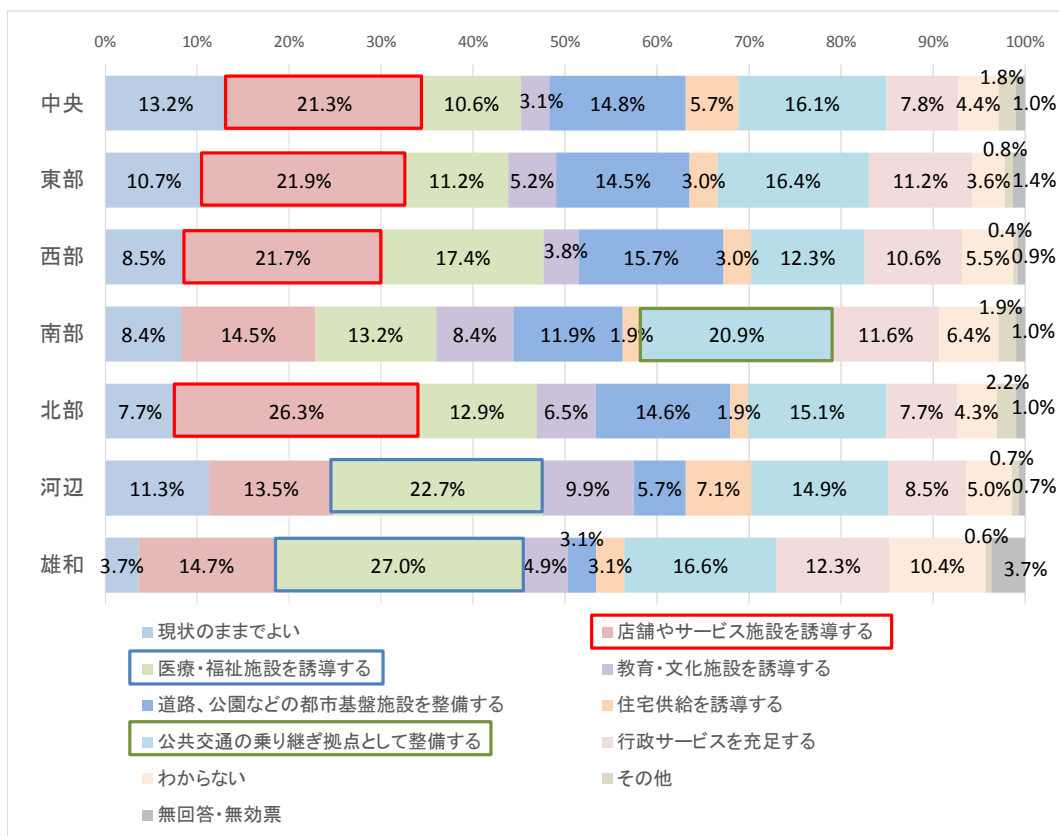


図 2-15 住まいの地域中心に求めるもの（地域別）

3) 20年後を見据えたまちづくりを進める上で重要だと思う事項

- ・重要度が高い項目は「充実した医療」や「生活しやすさ」、「公共交通と徒歩での移動が便利」、「防災・防犯対策の充実した社会」で、重要度が低い項目は「個性的で魅力がある」、「豊かな自然が広がる」、「公園・緑地が豊か」である。

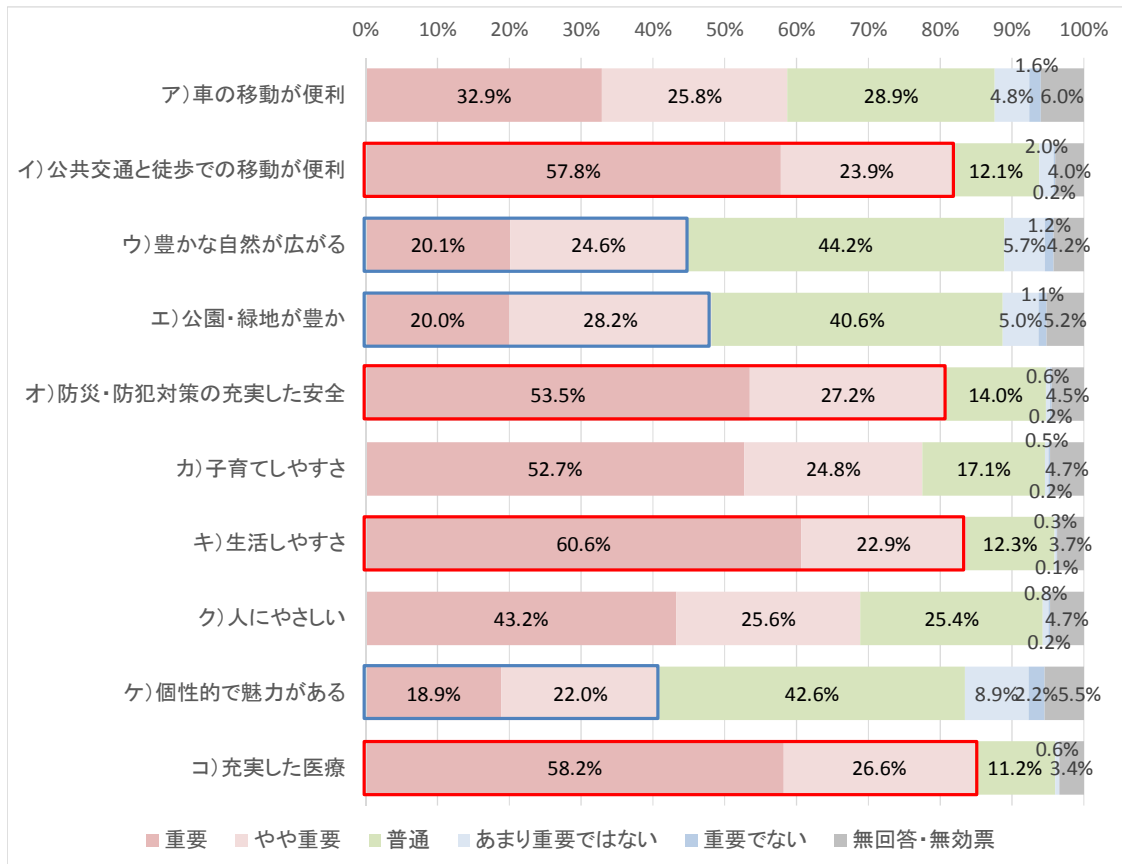


図 2-16 まちづくりを進める上での重要度

2-5 土地利用のルールを理解度

- ・土地利用のルールは、「知らない」が56.3%と最も多く、次いで「聞いたことがあるが内容はわからない」が23.7%、「知っている」が18.2%の順となっている。
- ・年代別では、50歳以上の各年代で「知っている」と「聞いたことがあるが内容はわからない」の合計が45%を超え、50歳未満の各年代と比較して相対的に多くなっている。

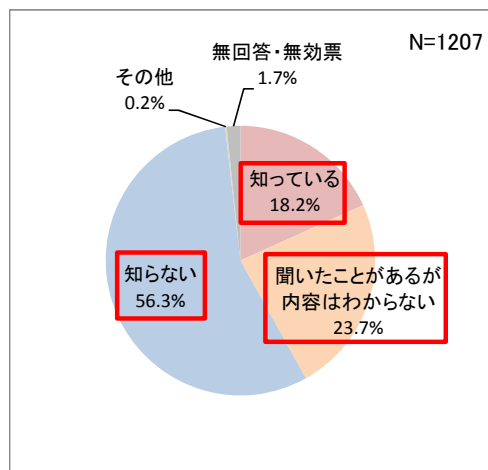


図 2-17 土地利用のルールに関する取組みの認知度

2-6 土地利用のあり方に対する意識

1) 市街地の広がりに対する意識

- ・「抑制し、既存市街地の都市環境を整備・更新」が34.0%と最も多く、次いで「最低限はしてもよいが、優良な農地の保全に配慮」が29.5%、「積極的に市街地を拡大するが、計画的に行う」が21.1%の順となっている。
- ・地域別では、河辺地域、雄和地域で「最低限はしてもよいが、優良な農地の保全に配慮」が約40%と、他地域と比較して相対的に多くなっている。その他地域では「抑制し、既存市街地の都市環境を整備・更新」が30%を超え、河辺地域、雄和地域と比較して相対的に多くなっている。

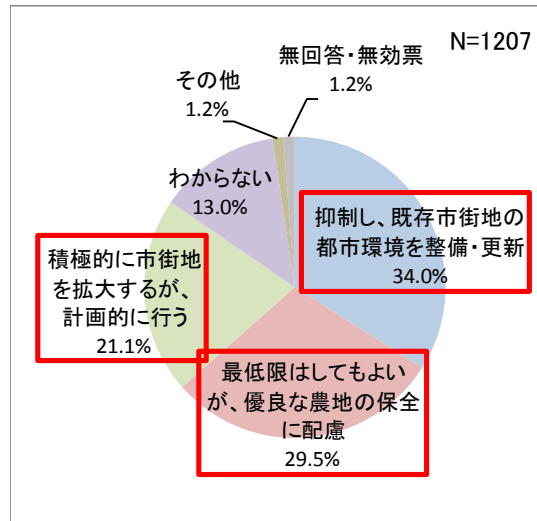


図 2-18 市街地の広がりの方角性

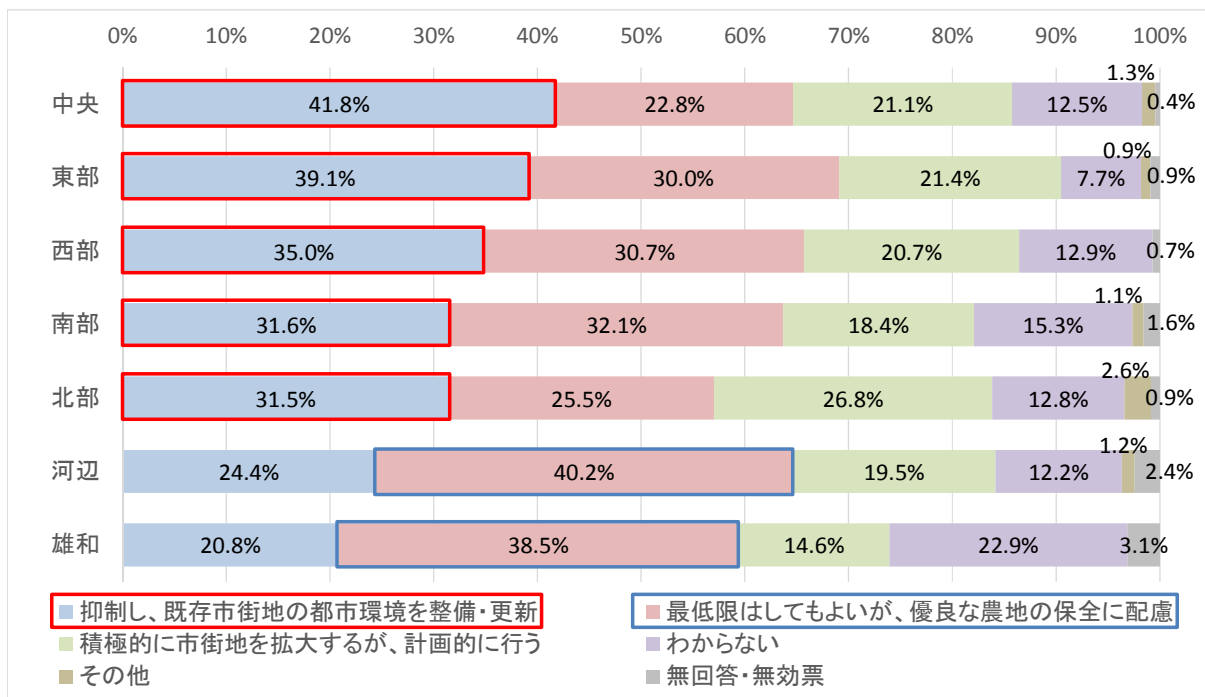


図 2-19 市街地の広がりの方角性 (地域別)

2) 農地や山林のあり方に対する意識

- ・「遊休農地の活用や山林の間伐など積極的に活用する」が32.0%と最も多く、次いで「環境保全のため開発を抑制し、現在の農地や山林を残す」が28.7%、「農林業体験や散策など観光レクリエーションの場として活用する」が18.7%の順となっている。
- ・地域別では、河辺地域、雄和地域で「環境保全のため開発を抑制し、現在の農地や山林を残す」が25%未満と、他地域と比較して相対的に少なくなっている。

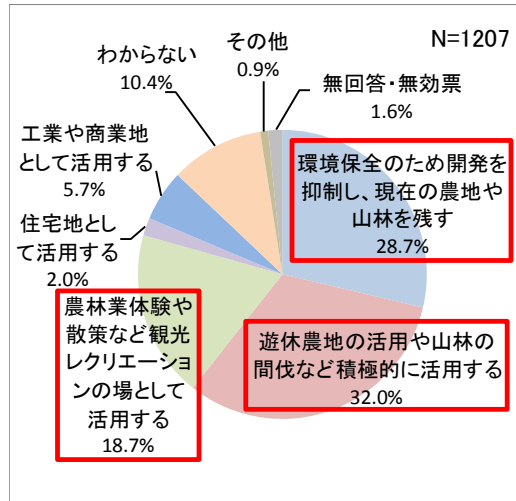


図 2-20 今後の農地や山林のあり方

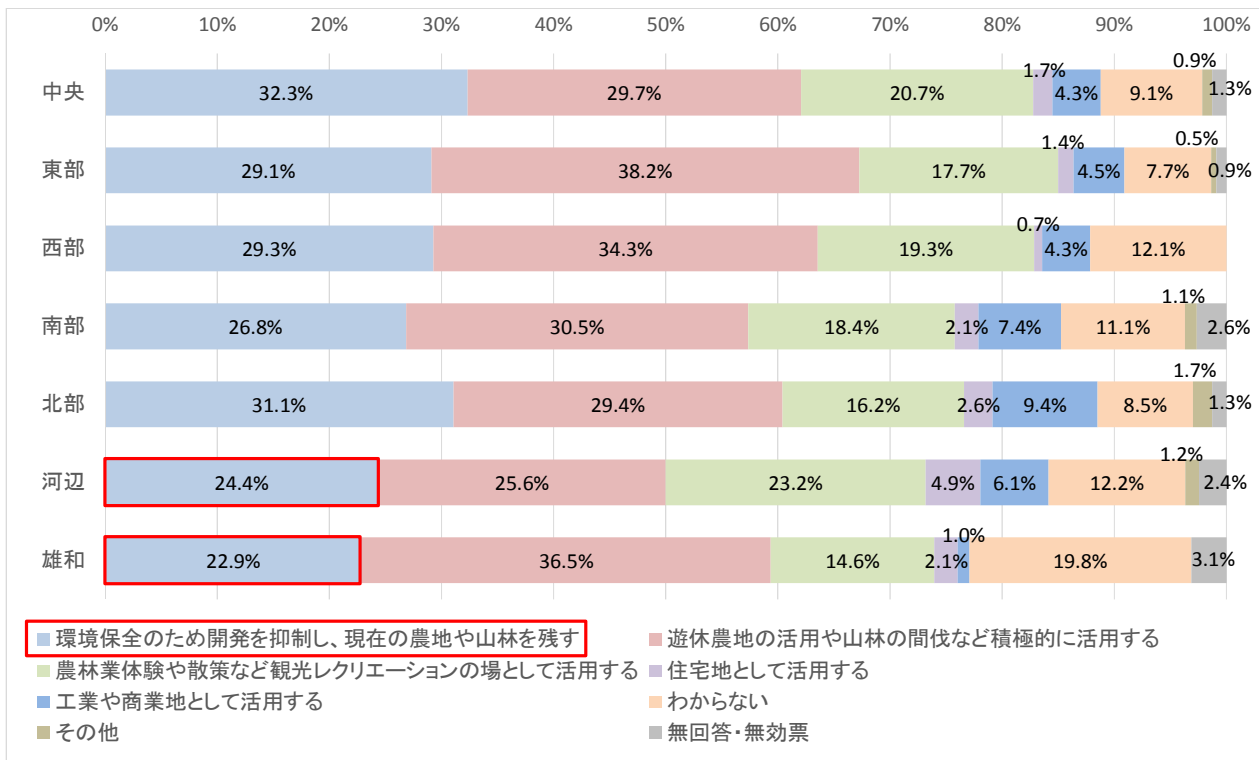


図 2-21 今後の農地や山林のあり方 (地域別)

2-7 まちづくりへの参加意識

1) 今後参加したいと思う活動の分野

- ・「イベント・祭」が44.7%と最も多く、次いで「福祉（高齢者、子育てなど）」が37.6%、「清掃・リサイクル」が35.5%の順となっている。
- ・年代別では、40歳未満の各年代で「イベント・祭」が20%を超え、40歳以上の各年代と比較して相対的に多くなっている。また、50歳以上の各年代で「清掃・リサイクル」や「緑化・緑の保全」が25%を超え、50歳未満の各年代と比較して相対的に多くなっている。

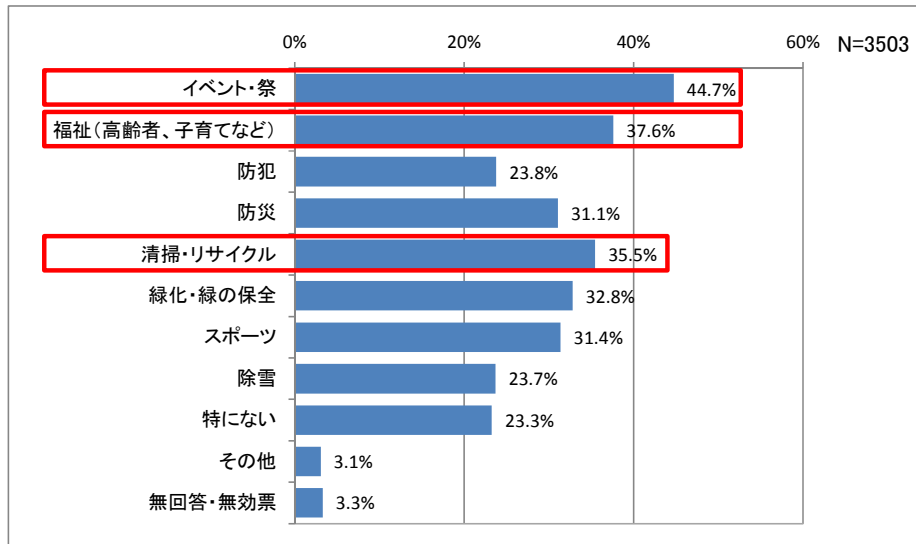


図 2-22 活動への参加意向

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない

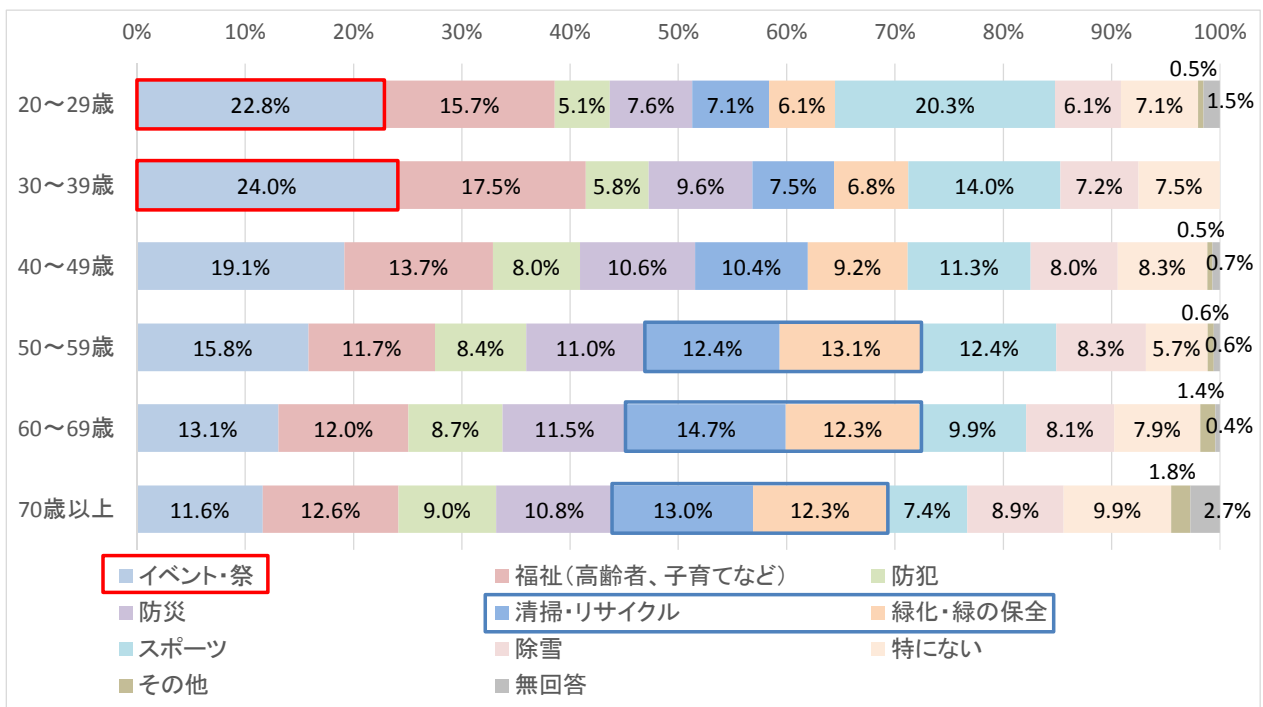


図 2-23 活動への参加意向（年代別）

2) まちづくりに対する市民の役割で重要だと思う事項

- ・「自分の住んでいる地域に関心を持つこと」が76.4%と最も多く、次いで「町内会や自治会などで地域の活動を行うこと」が34.6%、「周辺環境に調和した住宅づくりや緑化など、自分のできることから始めること」が30.9%の順となっている。
- ・地域別では、河辺地域、雄和地域で「町内会や自治会などで地域の活動を行うこと」が約30%と、他地域と比較して相対的に多くなっている。
- ・年代別では、40歳未満の各年代で「行政が策定する計画づくりに参加すること」が約10%と、40歳以上の各年代と比較して相対的に多くなっている。一方、60歳以上の各年代で「町内会や自治会などで地域の活動を行うこと」が20%を超え、60歳未満の各年代と比較して相対的に多くなっている。

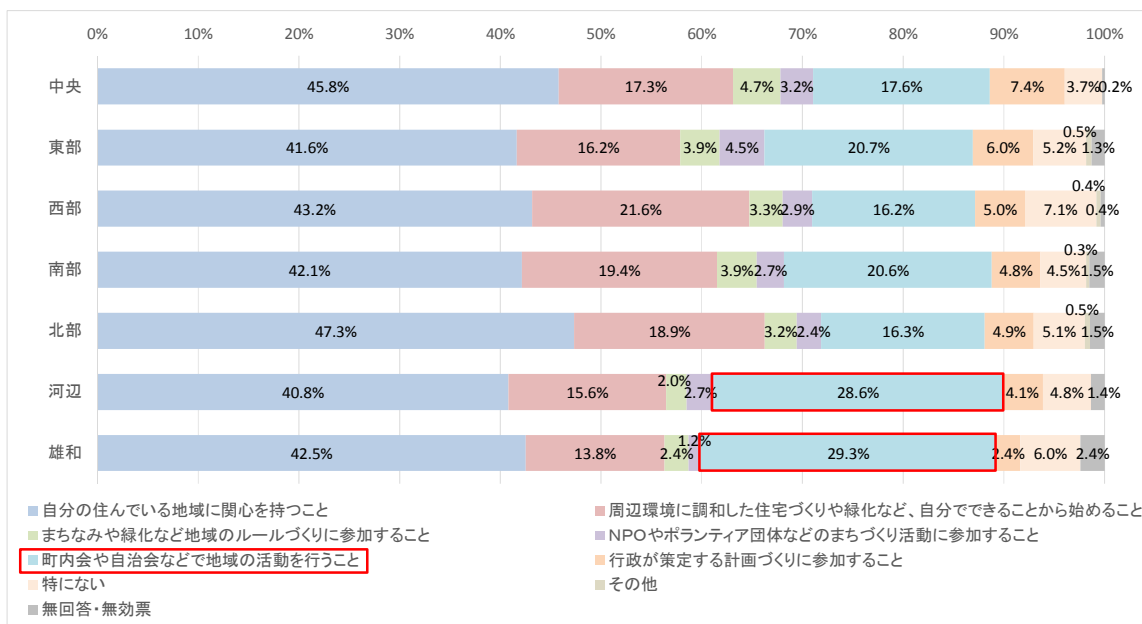


図 2-24 まちづくりにおける市民の役割として大切なこと（地域別）

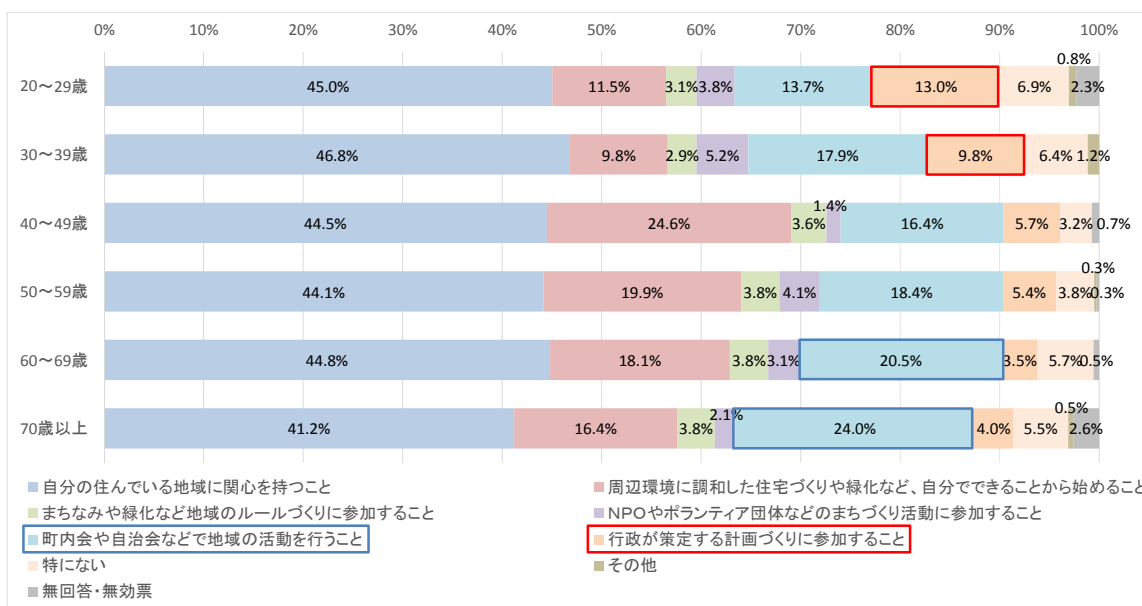


図 2-25 まちづくりにおける市民の役割として大切なこと（年代別）

2-8 秋田市総合都市計画の見直しに係る重要テーマ

- ・「人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり」が64.0%と最も多く、次いで「誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり」が63.8%、「災害に強い都市づくり」が50.0%と多くなっている。

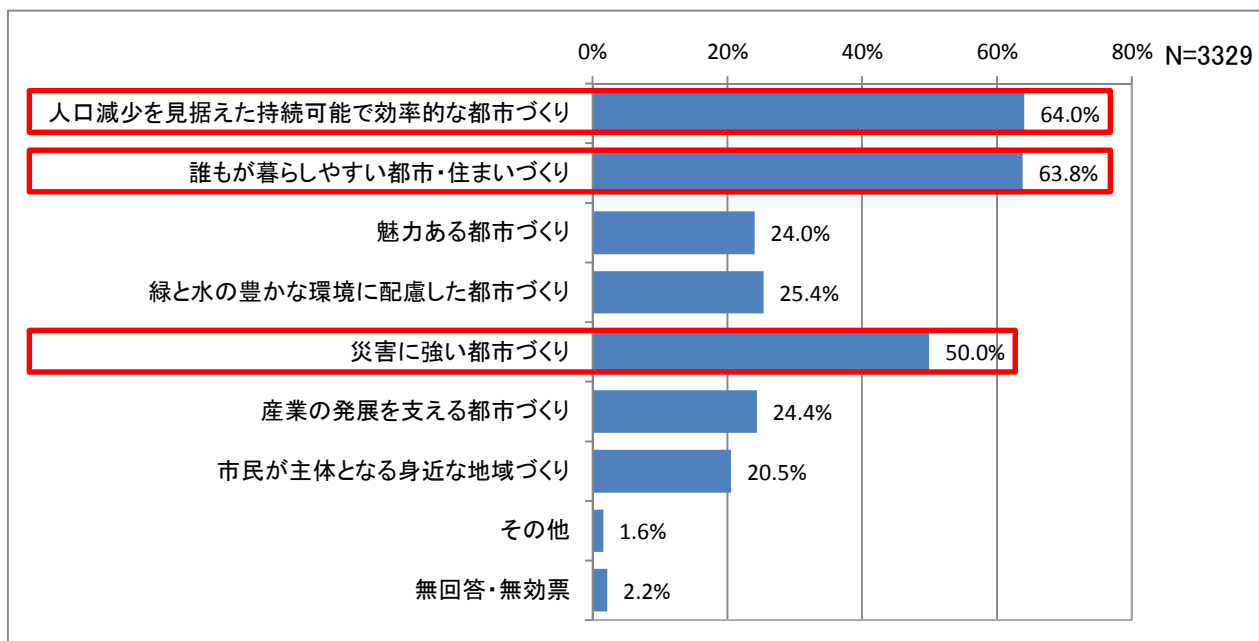


図 2-26 秋田市総合都市計画を見直す上で重要なテーマ

注：上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない

2-9 自由意見

- ・自由意見は、316人から580件の意見が寄せられた。
- ・その中で意見が多かったのは、「秋田市のまちづくり等に関すること（102件）」、「公共交通に関すること（70件）」、「市街地に関すること（59件）」となっている。
- ・そのうち「秋田市のまちづくり等に関すること」で意見が多かったのは、「コンパクトシティに関すること（23件）」、「若者に対するまちづくりでの配慮に関すること（22件）」、「秋田市の魅力創出に関すること（17件）」となっている。